

小網代の森と干潟を守る会
小網代 森と干潟つうしん



モリちゃんとガタくん干潟デビュー

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ
小網代の森と干潟を守る会
〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5
代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com
TEL:046-889-0067 (仲澤)
URL: http://www.koajiro-higata.com
年会費：一般会員 ¥1000 賛助会員 ¥5000 (入会金不要 7月～6月)
郵便番号：00260-4-21569 小網代の森と干潟を守る会

第 110 回自然観察&クリーン

“つながる生命 アカテガニの放仔”



期日：2012年8月4日(土)晴れ

「つながる命、アカテガニの放仔」の観察を目的として行われました。横浜では大雨、三崎口へ着く頃には快晴となってきた。日が落ちると適度に湿度があり涼しくて最高の観察会となった。期待されたカニの数も多く、とくに初めて参加の皆さんは小さな自然の営みに大きな感動を味わい、ほんとに来てよかったと喜んでくれました。

この日の NPO 法人小網代野外活動調整会議の実施報告から引用すると、カニパト参加者 22 名、観察会参加者計 29 名。

大潮 月齢 15.9 日没 18 時 42 分 満潮 18 時 29 分 潮位 156 センチ

放仔ピーク 19 時 05 分

三崎口駅集合 16 時-19 時 30 分現地観察会終了

ボラが時々飛び跳ねる大潮の海面すれすれに、カワセミが飛翔して行くお馴染みの風景である。夕焼け空にはアオサギが集団飛行して暗い東の空へ飛んで行った。

観察会が終わり、帰路へ付く頃には金メダル風に輝く丸い大きなお月さまがのっそりと姿を現す。なぜ、月は地表に近いと大きく見えるのでしょうか。

カラスウリの開花を探す、ツルは確認できたが花は分からない。暗い白髭の裏道から望む星空、柄杓を立てたような北斗七星を確認できてじつに幸せでした。



文：祖父川精治 写真：松下景太・鈴木清市

※ 観察会は NPO 法人小網代野外活動調整会議と共催で実施し、NPO 法人小網代野外活動調整会議のカニパトロールに参加しました。

第 23 回小網代の森と干潟を守る会総会

平成 24 年 8 月 26 日（日）13 時 30 分から 15 時 30 分
三浦市南下浦市民センター 会議室

1990 年に発足した小網代の森を守る会が、昨年の 4 月に「小網代の森と干潟を守る会」に変わり、2 回目の総会が多数の本人出席を得て、加藤議長のもと盛大に開催されました。これまでの経緯、会員の皆様の気持ちを考慮して通算第 23 回目の総会とさせていただきました。

今回の総会では、今後の守る会が果たす役割を踏まえた活動方針案、予算案、担当スタッフ案などが原案どおり承認されました。

また、各担当のスタッフ体制としては、代表の高橋伸和氏ほか、大きな変動はありませんが別紙総会資料のとおりになっております。代表のあいさつとして「これまで、普通にいたスズメやゴキブリが知らぬ間に少なくなったこと、あるいは、なにげない日常の生活に無頓着になっていて、もはや、元に戻れない状況になっていることに最近、気づいた。そして、どこにでもあったような里山が、消え小網代が関東で唯一になってしまったなどのことに繋がっている。

今後、いろいろ課題もあるが、小網代の森が自然のまま、これから我々が特に何もしなくとも、守られるような社会になっていけたらよいと考えている。」との言葉がありました。

また、総会の議事終了後、引き続いて各スタッフから小網代の森と干潟への熱い思い、NPO 法人小網代野外活動調整会議への活動支援、守る会の今後の役割・仕事など、今年 1 年の活動に対する抱負について固い決意表明がありました。

そして、休憩後第 2 部の岸 由二氏（NPO 小網代野外活動調整会議代表理事）の講演会がありましたが、その概要は 4-5 ページのとおりです。

（総会まとめ：鈴木清市）

総会議案書

第 23 回小網代の森と干潟を守る会総会

日 時 2012 年 8 月 26 日（日）13 時 30 分～15 時 30 分
場 所 三浦市南下浦市民センター（京急・三浦海岸駅下車 徒歩 1 分）

総会次第

13:30

司会進行 松下景太

開会挨拶

議長選出

資格審査

議事

第 1 部 総 会

第 1 号議案 2011 年度活動報告（案）

第 2 号議案 2011 年度決算報告（案）

第 3 号議案 2012 年度活動方針（案）

第 4 号議案 2012 年度予算（案）

第 5 号議案 2012 年度スタッフ（案）

第 6 号議案 その他

議事一括審議

議長解任

閉会のことば

休 憩

14:15

第2部 記念講演 「小網代の湾奥の干潟について」

岸 由二氏 (NPO法人小網代野外活動調整会議代表理事)
ラムサール条約指定湿地を目指す小網代の干潟を中心に
お話を頂きます。

第1号議案 2011年度活動報告(案)

2011年

- 6.25 ジポーリン菜穂子著 「小網代の森の住人たち」刊行協力 (八坂書房)
- 7.09 スタッフ会議
- 7.14 三浦半島まるごと博物館連絡会 出席
- 8.06 スタッフ会議
- 8.14 第106回自然観察&クリーン「アカテガニの放仔観察」
- 9.4 スタッフ会議
- 同 第22回小網代の森と干潟を守る会総会
- 9.17 第120号「小網代 森と干潟つうしん」発行/スタッフ会議
- 9.18 新ホームページOPEN
- 10.8 スタッフ会議
- 11.12 (社)日本ナショナルトラスト協会臨時総会出席/スタッフ会議
- 11.13 三浦市主催みどりの市民会議
- 12.3 第107回自然観察&クリーン 雨天のため中止
- 同 キララ賞贈呈式 過去の受賞者として現状説明に出席/ スタッフ会議
- 12.4 財団法人かながわトラストみどり財団「25周年記念シンポジウム」参加
- 12.07 中井由実著 第2詩集「小網代の森を訪ねて」刊行協力
- 12.17 第121号「小網代 森と干潟つうしん」発行

2012年

- 1.21 スタッフ会議
- 1.27 NPO法人小網代野外活動調整会議と意見交換会(網島)
- 2.11 スタッフ会議
- 2.17 横須賀市自然人文博物館「三浦半島の干潟」見学
- 3.10 (社)日本ナショナルトラスト協会全国大会 参加
- 3.17 第122号「小網代 森と干潟つうしん」発行 / スタッフ会議
- 4.29 第108回自然観察&クリーン「春の小網代を歩く」
- 4.30 真鶴半島遠足 真鶴岬、町立遠藤貝類博物館他
- 5.7 三浦半島まるごと博物館連絡会参加
- 5.13 鶴見川源流祭出展 参加
- 5.19 第123号「小網代 森と干潟つうしん」発行 /スタッフ会議
- 6.23 第109回自然観察&クリーン「小網代の干潟を歩く」/ スタッフ会議
- (6.25 「奇跡の自然-三浦半島の小網代の谷を「流域思考」で守る」岸由二著 発表)

第2号議案 2011年度決算報告(案) (2011/7/1~2012/6/30)

(単位:円)

収入の部				支出の部			
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
前期繰越金	1,538,919	1,538,919	0	通信費	50,000	87,860	-37,860
会費収入	200,000	91,880	108,120	交通費	30,000	57,940	-27,940
売上収入	100,000	130,620	-30,620	事務消耗品費	10,000	3,600	6,400
寄付金収入	200,000	77,000	123,000	研修費	100,000	5,000	95,000
森応援金収入	300,000	150,320	149,680	会議費	50,000	73,743	-23,743
森応援金前期 過大計上分		(注1) -179,540	179,540	広報費	300,000	39,035	260,965
預金利子収入		34	-34	諸手当	100,000	81,000	19,000
				諸会費	50,000	101,840	-51,840
				仕入れ	20,000	78,894	-58,894
				次期繰越金	1,628,919	1,280,321	348,598
						(注2)	
	2,338,919	1,809,233	529,686		2,338,919	1,809,233	529,686

(注1) 森応援金前期過大計上分については、昨年度決算において計上した金額は2010年度における未支出残高であったため、これを修正するものです。

(収入金額 156,191 - 未支出残高 335,731 = 差異 -179,540)

(注2) 次期繰越金内訳


現金 36,774
普通預金 91,416
定期預金 502,771
郵便振替口座 649,360

合計 1,280,321

以上の通り報告いたします。

2012年8月26日


会 計

宮本美織 

上記の通り相違ないことを認めます。

2012年8月26日

会計監査

櫻井秀真 

第3号議案 2012年度活動方針(案)

1. 森と干潟での自然観察&クリーン活動の推進
2. 森と干潟におけるNPO小網代野外活動調整会議の活動の支援
3. 活動報告と自然を紹介する会報「小網代 森と干潟つうしん」の発行
4. 財団法人かながわトラストみどり財団の普通会员及び小網代支援会員を増やす活動
5. ラムサール条約湿地の指定を目指す研修、啓発の活動

第4号議案 2012年度予算(案) (2012/7/1~2013/6/30)

(単位:円)

収入の部				支出の部			
科目	予算額	決算額	差異	科目	予算額	決算額	差異
前期繰越金	1,280,321	1,538,919	-258,598	通信費	100,000	87,860	12,140
会費収入	100,000	91,880	8,120	交通費	60,000	57,940	2,060
売上収入	150,000	130,620	19,380	事務消耗品費	10,000	3,600	6,400
寄付金収入	100,000	77,000	23,000	研修費	10,000	5,000	5,000
森応援金収入	150,000	150,320	-320	会議費	80,000	73,743	6,257
森応援金前期 過大計上分		-179,540	179,540	広報費	50,000	39,035	10,965
預金利子収入		34	-34	諸手当	100,000	81,000	19,000
				諸会費	50,000	101,840	-51,840
				仕入れ	20,000	78,894	-58,894
				みどり寄付金	300,000		
				次期繰越金	1,000,321	1,280,321	-280,000
	1,780,321	1,809,233	-28,912		1,780,321	1,809,233	-28,912

第5号議案 2012年度スタッフ(案) ()は主たる受け持ち

代表 高橋伸和

副代表 矢部和弘(広報) 小倉雅實(観察会) 仲沢イネ子(総務)

企画渉外 岸 由二 築瀬公成 柳瀬博一 辻 晴一 浪本晴美

会計 宮本美織

総務 山本述子

広報 橋美千代 松下景太 中井由実 橋ちひろ

観察会 鈴木清市 野内真理子 菅野哲生 松原あかね 祖父川精治

鈴木カヲル 岩崎敬一 ジボーリン菜穂子 別府史朗 木皿直規

(会計監査 櫻井秀真)

第6号議案 その他



記念講演会『小網代の湾奥の干潟について』 講演要旨

NPO 法人小網代野外活動調整会議代表理事 岸由二氏

- 先般、NPO 法人小網代野外活動調整会議は《平成 24 年緑化推進運動功労者内閣総理大臣賞を受賞し、それと合わせて《奇跡の自然～三浦半島小網代の谷を「流域思考」で守る》の出版がありました。
- 小網代の森は、浦の川の集水域 70ha と河口干潟、その先海となって小網代湾が広がっていますが、もっと言ってしまうとあれ全体が拡大流域生態系(リアスの谷)を形成しているので、ここ全体をいい形で保全地域にするというのが当初からの狙いでした。
- 森の部分については 2010 年 2 月に、県により保全に必要な用地の取得が完了しました。干潟は今現在何の保全もされていません。海に至ってもさらに保全されていない。森と干潟と海がセットで保全をされないとアカテガニが住める森の保全が終了したことにはならない。そこでまだ仕事が終わっていないという認識をしないとイケない。
- 我々がここで、高齢で何もしなくなったとしたら、誰が守るのか？ 多分近くのいくつかの企業があそこの自然を自分たちが生きるプロモーションとして使うとなって干潟は守られると思っています。
- なんでそう思うかという、今、企業を取り巻く景色が変わっていて、まっとうな企業はこうしたことをやらないと前に行けないのです。
- 去年なかったことで今年あることの一つのその事例として【トヨタ自動車のハイブリッドカー「AQUA」アクア】の発売戦略の取り組みがあります。この関連で先般、2 日間北上川に出かけてきました。アクアは<水>という意味なのでそれにちなんで、全国規模で地元のメディアと協力して、水をテーマに自然環境を保護・保全する地域社会貢献活動プロジェクトが実施(3 年間)されていて、たとえば東京、神奈川では“みんなの鶴見川流域再生プロジェクト”具体的には川沿いの植樹、下刈り、川辺の掃除、貴重な生き物を守るなど各エリアにあった内容で実施されています。要するに宣伝費の一部をこうした市民運動の応援分野に廻していると変わってきたわけです。
- この他『電通』関連では北上川の流域思考による自然再生、『東芝』自社の敷地、全社員を対象にしたユズ苗・アゲハのプロジェクト、また、生きがい保全としてのハマカンゾウの育成、キリンビールも同じような動きがある、など企業のプロモーションの内容が持続可能な経営に重点がおかれるようシフトがかわってきています。
- ところで、小網代の干潟の保全については、「ラムサール条約地」にしていまいとアドバルンを上げています。
- その面積は、小網代の干潟 3ha、あと数年で回復するであろう内陸の淡水湿地 3ha、そして寺田倉庫から棧橋周辺の亜潮間帯湿地の全体では 10ha になるはずですが。
- それでは今すぐ、小網代干潟が登録できるか？ それはできません。現状では環境省の考えが一部の学者の考えにもとづいているからです。



- 今はこの条約地は国際的にみて意味(渡り鳥にとって)のある湿地となつて、ほとんどが巨大な湿地が指定されています。ただ、今後 10 年先、場合によってはもう少し早くに環境省の考えが変わると思っています。随分前にラムサール条約地の候補に小網代は入っています。
- そこで、いつかは別として、重要な湿地としてその内容がなければ守りようがないわけですが、これから小網代の干潟を守るにあたって自慢の種の一つがアマモ場です。ところがこのアマモが昨年の 3.11 震災の時、干潟の海底がはぎとられ大被害を受けました。その後アマモの残存について何回か調査をしておりますが、数十株しか残っていない。その後全く回復していない。おそらく元に戻すには 5~10 年はかかるでしょう。現在移植も検討している。
- もう一つは、環境省が国際的に重要な干潟について、具体的には絶滅危惧種のことも重要視しているので、この点も指摘していかなければなりません。この点については現在小網代のスタッフの何人かが調査しています。
- そうした中で、難しい懸案の一つが南方系のカニの取り扱い、サラサヤンマは健在、ゲンジボタルも数年後期待できそう、そしてアマモ場の復活など絶滅危惧種がまだ生き残っていることを実証できるようにしていきたい。また、河口周辺ではツバメが秋参集して渡っていく干潟になるかもしれない。
- こうしてみると小網代の干潟は、干潟と亜潮間帯の生物多様性の観点から、こんな素晴らしい湿地は他にはありません。ここで、我々の進む方向が間違わなければきっと企業が応援してくれるでしょう。
- 以上のほか、難しいこととして地域とのかかわりの問題があります。一つは魚協との問題、地元自治会、学校との連携などありますが、ある程度、何回かのイベントを通じ地元の皆さんと仲良くやっていける見通しができてきました。4 回目のココボラを県、三浦市、京急、マリンパーク、リビエラリゾート、小網代区などの協賛をいただいて実施予定です。ここに本日お集まりの小網代の森と干潟を守る会の関係の子供たちが大勢参加することを期待しています。

(記録:鈴木清市)

新刊書のご紹介

奇跡の自然—三浦半島小網代の谷を「流域思考」で守る



岸 由二著：柳瀬博一写真
八坂書房
定価 1600 円＋税

小網代保全の新しい時代をささえるための
著者渾身の一冊が出版されました
応援よろしく願いいたします

ご購入は

- ・ amazon www.amazon.co.jp 検索「本—奇跡の自然」
- ・ 小網代の森と干潟を守る会
Tel. 046-889-0067 (副代表 仲澤)
mail: info@koajiro-higata.com

会員便り

8月のアカテガニ放卵カンサツに参加したいと思います。 杉田司朗さま	今年のカニのイベントには参加できたらと思います。 上田尚美さま	小網代の森と干潟が守られますように、いつも祈っています。 福井すみ代さま
森があると思うと心が平らかです。 北村和子さま	いつもお世話になります 藤崎洋子さま	地道な活動を応援します。 須田漢一さま
郵送で迷惑をおかけします。足しにして下さい。又、これから大変です、宜しくおねがい致します。 M.Iさま	新しき皮ぶくろに積年の宝物を盛って。リードなされる皆様、誠にご苦労様です。老兵はひっそくするのみにて…。 小柳康蔵さま	2008年7月、脳梗塞を発症し、以来歩行困難となり、現在も週2回リハビリテーションに通院しております。そのため残念ながら退会させていただきます。貴会の一層の発展を祈ります。 鈴木 清さま
すばらしい活動をされています。又、継続することの大切さ、困難さを学ばせて頂いています。何もお手伝い出来ず、申し訳ありませんが、通信を楽しく読ませてもらっています。畑仕事で真っ黒、頑張ってますよ。 藤野秀代さま	今日までの皆様のご努力に心から感謝申し上げます、老老介護で何のお手伝いも出来ませんで申し訳ございません。皆さま方のご健康を心よりお祈り申し上げます。「つうしん」は楽しみに拝読しています。 高間玖爾美さま・玲江さま	「小網代 森と干潟つうしん」をいつもご送付ありがとうございます。暑いころスライドでアカテガニの放卵を見させていただきましたが、8/4実際に見せてもらいたいと思っていますが……。 三ッ井ヒデ子さま
行事に参加したいと思いつながら仲々実現できません。皆様のご活躍を心よりお祈りしています。 大川須美さま	皆様、ご活躍で何よりです。当日は予定を組んでいて、うかがうことができません。よい会になりますように…。 佐藤京子さま	“生き物にぎわう 小網代の干潟”いいですね。どの子もそういう環境の中で育つような世の中にしたいいものです。 松林伸子さま
娘一家が小網代に住んでいます。年寄りなので、活動するのはシンドイので、外野から応援させてもらいます。 伊達一雄さま	いつも会の運営ありがとうございます。夏バテしない様に頑張ってください。 金木公子さま	森と干潟が着実に整備されてきたこと、スタッフご一同のご努力の賜と拍手するばかりです。 小柳康蔵さま
貴重な生態系を後世に残さなくては！会の活動に期待しています。 北村和子さま	小さな大湿原、小網代の森と干潟のラムサール条約湿原指定を応援します。 蛭名喜代作さま	「奇跡の自然」読みました。現地へ行ってみたいです。 安西章次さま
充実した通信と諸企画の実践に感謝です。 野本哲夫さま	着実に前進しておられる様子、喜んでおります。 岡見義昭さま	ラムサール湿地指定できたらいいですね、応援しています。 柿島京子さま
いつもご苦労様です。蓮尾もと子さま	盛会を祈ります。 藤田 正さま	ご苦労さまです。 片桐信治さま
よろしくお祈りします。河内町子さま	いつもつうしん、ありがとうございます。 大塚 敏さま	森の保護と共存、宜しくおねがい致します。 M.Iさま
日頃は参加が出来ず申し訳ないです。会の発展します様に。 土屋圭子さま	暑さの折柄、スタッフの皆さんも体に気を配ってください。 佐藤 高さま	いつもお世話になっております。 鈴木慶子さま
継続は力なり、スタッフの皆様には、頭が下がります。 福田みどりさま	スタッフの皆さん、永い間お役ご苦労様です。いつも欠席で申し訳ございません。 石川登美子さま	会の行事には参加していませんが、森・干潟を守る活動を応援します。 加藤紀子さま
これからも微力ながら応援させていただきます。皆様のご健康をお祈り申し上げます。	お手紙をいただきましたが会費その他辞退させていただくよう連絡もしましたので、申し訳ありませんが通信その他切手代もかかりますのでご遠慮させていただきます。益々守る会が発展しますことをお祈り申し上げます。	平野晶子さま

※ 暖かいメッセージの数々をありがとうございます。また、退会のご連絡をいただいた方には、今号が最後の会報となります。永らくのご支援に心から感謝いたします、ありがとうございました。

※ 会員さまからのお便りをいつもお待ちしております

盛夏

中井 由実

夏が飽和している
空は放射状に散乱するようになった
風は吹く方向がさだまらず
いびつな渦になっている
木々の葉は上に伸びるのをやめた

アカテガニ広場の波打ち際
過飽和した夏が
日没とともに結晶する
はじけたばかりのゾエアの形に

八月十九日
くろい月が しんと見下ろしている



声

中井 由実

水の面に落ちた一滴の水粒が
小さな波を伝えるように
木の枝の間に詰められた空気が
セミのお腹の振動を伝える
細い音のヒダが
セミの数だけ寄せてくる
幹にぶつかっては折れ曲がり
別の向きに広がる

ミーンミーンミン

ミンミンジリジリジリ

ミーンミーンミン

立ちこめる音の波
人は もう
息ができない

干潟の雑学 (4)

バイオフィルムを食べる: 懸濁物食者と堆積物(沈積物)食者

小網代湾の湾奥部では潮が引いて干潟が現れると春と秋にシギ、チドリなどが食事しているのが見られます。2012年2月の神奈川新聞に「微生物の膜 主食と解明、干潟のシギなど」という見出しで、干潟に飛来するシギやチドリが微生物を含む干潟の泥表面の膜「バイオフィルム」を主食にしていることを日本・英・カナダの共同チームが始めて解明したという記事が掲載されていました。

干潟の微小な珪藻類、渦鞭毛藻類、干潟表面の有機物(バイオフィルム)などを食べている生き物には飛来する水鳥の他に貝やカニなど多くの干潟に暮らす生き物がいます。

干潟に暮らす多くの二枚貝類は干潟表面の有機物を食べる堆積物食者と水中に浮遊するプランクトンや有機物を食べる懸濁物食者とが見られます。

この両者には明瞭な体制上の違いが見られます。懸濁物食者の二枚貝類(小網代の干潟ではオオノガイ、ソトオリガイ、マテガイなど)では水管が癒合する方向に分化し、そして長くなります。その一方で、唇弁(口の部分)は小さく、足が退化する傾向があります。大きくなるとより深く底質の中にもぐり、水管は丈夫な皮膜でおおわれ、殻のなかに収納できなくなります。

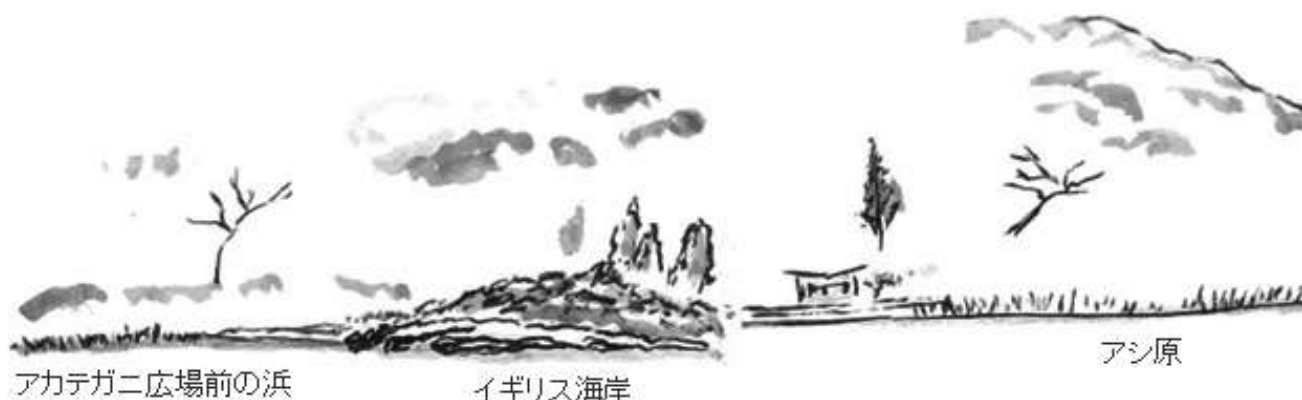
典型的な堆積物食者の二枚貝類(小網代の干潟ではユウシオガイ、ヒメシラトリなど)は遠くのほうにある餌までも集めるために長く、分離した水管を発達させています。

水管は細く、伸張性があり、足は大きくて活動的です。また唇弁(口の部分)は大きく、餌の粒子を選り分けて口の方に運ぶ特別な働きを持っています。

懸濁物食者も堆積物食者も入水管から取り入れた食物の食べ方は同じです。

糸鰓型の鰓をもつ懸濁物食者であるアコヤガイやホタテガイなどそして弁鰓型の鰓をもつ堆積物食者であるユウシオガイやサクラガイなどは水中のプランクトンや有機物の粒子、干潟表面の有機物を鰓で濾しとって食べています。鰓の表面には繊毛があり、繊毛の働きにより外套腔内の水流を起こし、鰓の表面で餌を捕らえています。餌は繊毛の働きで鰓の端にある食溝に集められて唇弁(口の部分)に運ばれます。

ニッコウガイ科(サクラガイ、ユウシオガイなど)の二枚貝では、底質の粒子サイズが減少するにつれて(より泥っぽい底質)、鰓の大きさと相対的に唇弁(口の部分)のサイズが増大することが知られています。しかし、懸濁物食と堆積物食という二つの摂食法は明確に区別できないことも解ってきています。ワスレイソシジミとサビシラトリの2種は、ごく近くで暮らしていますが、ワスレイソシジミは水管の先端に触手状の突起を持っており、小さい唇弁を持っています。サビシラトリは、より細い伸縮性の水管と、発達した唇弁を持っていて、典型的な堆積物食者としての体制を備えています。また、オオノガイは満潮時には懸濁物食ですが、潮が引いて水位が下がるにつれて周囲の表泥から食物粒子を吸い込む堆積物食にかかわることが知られています。懸濁物食と堆積物食のいずれの摂食法も行うことができるようになることは干潟に暮らす二枚貝にとって有利です。



干潟の環境は場所によって非常に変化に富んでいます。砂と泥の割合は潮の流れや森からの土砂の流入によって大きく変化します。また森からの淡水の流入量、流入場所も大きく変わります。陽のよく当たる場所や当たらない場所もあります。このようなことから干潟の微小な藻類やデトリタスの種類、分布もたいへん変化に富んでいます。よく観察すると、小網代の干潟に暮らす二枚貝類もそれぞれ一番気に入った場所で暮らしていることがわかります。

サクラガイの受難の話

スコットランド西岸ではツノガレイ(北欧ではポピュラー食用魚)が豊富であり、底層生活に移ったばかりの稚魚は内湾の砂底に棲みます。ツノガレイの稚魚は底層生活の初期にサクラガイ(日本の種とは異なる)の水管を捕食します。1966年5月から6月にかけては全食物の60%前後も占めていました。サクラガイは水管を食いちぎられただけでは死にませんが、水管を再生するまではほとんど餌をとることはできません。備蓄したエネルギーで個体維持を行い生殖巣の発達にはエネルギーを廻せませんので、ツノガレイの稚魚がたくさんいる年の次の年にはサクラガイの仔貝の新規加入はまったく見られません。

サクラガイは堆積物食者ですので長い水管を砂底に伸ばしています。小網代の干潟ではユウシオガイ、ヒメシラトリがやはり長い水管を伸ばしています。アサリやマテガイは懸濁物食者ですので短い水管を砂底へ出しています。マテガイも水管を少しは食べられますがわずかです。またマテガイの水管はいくつもの節があり、ここから切れるようになっているので被害が最小になるようになっています。

小網代の干潟でも今年のカニパトの時に小さなヒラメの赤ちゃんが1匹見られました。小網代の干潟にもたくさんのアサリ、ユウシオガイ、マテガイなどが暮らし、たくさんのヒラメの赤ちゃんが見られるようになると楽しいです。

参考資料:貝類学、佐々木猛智、2010

干潟ベントス群集の機能と生存戦略—二枚貝を中心に—、秋山章男;遺伝、1985

サクラガイの受難、菊池泰二:自然、1980

小倉 雅實



干潟のゆりかごの小さな住人 その6

くらげ、泳ぐか、浮かぶか、月を模して漂うか —命なき秩序よりも、命ある無秩序を—



ジポーリン菜穂子

日が沈んだばかりの干潟。月を映しているかのように、ゆったりと水の面^{おもて}を優雅に漂う青白いもの。くらげ。この言葉はどこから来たのでしょうか。クラクラ泳いでるんけ？を略してくらげ？あまり楽しそうでなく、むしろなんとな〜く暗そうにしているからクラゲ？漢字で書くとすてきですよ。海月、水月、水母……。このうち、海月は、平安時代の辞書『和名抄』に、出ているのですが、江戸時代の辞典『和漢三才図会』では、この海月はくらげを表す漢字ではないとしています。でも、現代詩人、萩原朔太郎は、「月光と海月」というくらげの詩を書いていますね。月光の中を泳いでくらげを捉まえようとする、と始まり、次のように終わります。

かしこにここにむらがり
さ青にふるへつつ
くらげは月光の中を泳ぎいづ。



もちろん、実際のくらげ採りを詠った、ということより、自分って何？生きてるってどういうこと？と模索していることを、月の光の下、くらげと泳ぐことで表しているのでしょうね。

朔太郎の「およぐひと」という詩では、「およぐひとの心臓はくらげのやうにすきとほる」とあります。そして、最終行は「およぐひとのたましひは水のうへの月をみる」……です。

くらげの現代詩といえば、やはり、金子光晴の「くらげの唄」ですよ。

ゆられ、ゆられ
もまれてもまれて
そのうちに、僕は
こんなに透きとほってきた



と始まり、「心なんてきたならしいものは／あるもんかい。」と……。波がさらっていったそうなのです。そして、「僕？僕とはね、／からっぽのことなのさ」と自らを定義し、

いや、ゆられてゐるのは、ほんたうは
からだを失くしたころだけなんだ
ころをつつんでみた
うすいオブラートなのだ。



このように続いた後、最終行では、「疲れの影にすぎないのだ！」と、終わります。

こういう詩の受け取り方は、ひとによって違いますし、また、同じ人間でも、そのときの気持ちの持ち方で、違ってきますね。みなさまは、どのようにお感じになるのでしょうか。ぜひ、全文で味わってくださいね。

水月、海月といった名前といい、水に月の光のように漂うくらげは、まさしく詩的存在ですね。



鎌倉の東慶寺には「水月観音」さまが、いらっしゃいます。電話で事前予約をして見せていただくことができます。宝物館にも水月観音さまはいらして、こちらは、いつでも拝観することができます。でも、水月観音さま、くらげじゃないんですよ。足を崩した格好で、水面に映った月を愛でていらっしゃる菩薩さまです。実は、水と月、というと、禅や仏教では悟りを表す言葉だそうなのです。月が水に映ったら、映ったまま。消えたら消えたままです。自由でとらわれていないのですね。くらげも、水にゆらいでいる様子は、本当に自由で、とらわれていないようですよね。禅語には、たとえば、

「坐水月道場」 すいげつ道場に坐す
「水急不流月」 みずせかしくして、月を流さず
「掬水月在手」 みずをきくすれ（すくえ）ば、月手に在り

といったものがあります。茶席の掛け軸にもありますね。水月のようにとらわれない気持ちでいるように、ということでしょうか。最後の禅語は、月のように遠くにある御仏の教えでも、手の平に掬うことができる、つまり、御仏の慈悲は、どこにでも、だれにでも、というのですね。

さて、これが、吉原や島原の遊郭となると、話がちがってきます。遊女が「水」に例えられ、「月」がおお客様です。お客様の気持ちを、きれいに映すことができるとよい、ということでしょうか。それから、もうひとつ、別の意味もあります。洗練されていることを「水」、その反対を「月」と呼んでいたそうです。山から出てきたばかりの月が、水面に映ると、よりすてきになる、ということからだそうです。それぞれ、すい、がち、と呼びます。そうです、そこから、粋、イキが生まれてくるのですね。でもあまり通ぶってもだめなそうですよ。「水らしくせず、しゃんとした殿達」が理想なそうです。



『古事記』の冒頭に「久羅^{くらげ}下なすただよえる時」と出てきます。くらげの海のようなところから、大和の国ができ、神さまがおでましになる、というのです。くらげを「水母」と書くのは、くらげがいるところは、母なる水、というわけでしょうか。道教の書物にも、「水母を見ると寿命がのびる」などとも。道教では、くらげは、神仙の境地に達するために大切なものだったようです。

母なる水、といえ、海ですけれども。三好達治の「郷愁」という詩にこんな一行があります。

——海よ、僕らの使ふ文字では、お前の中に母がある。

戦前の旧字体では、まさしく海という字に、「母」が使われていました。現代は、海に母がいなくなってしまったのですね。

中華料理に出てくるくらげは、海蜇と書きますね。山くらげ、というのもありますよ。ケルン、あるいは、茎レタスと呼ばれるもの。この茎を細く切って干したものを山くらげというのだそうです。乾燥させるとコリコリして、海のくらげのような味わいなそうですよ。もともとは、アラビア出身の野菜です。キク科のアキノノゲシ属だそうです。レタスって、キク科なのですね。レタスを放置しておくと、菊のようなお花が咲くのでしょうかね。山くじら、とくると、こちらは、猪の肉。山のくじらと呼んだのは、洒落だったのか、綱吉公への遠慮だったのか。ホントは、くじらだって、動物なんですけれどもね。広重の江戸名所百景の「びくに橋雪中」に山くじらのお店が、焼き芋のお店とともに描かれています。

英語では「ジェリーフィッシュ」。なんだかお菓子のような名前です。ジェリー、つまりゼリーです。ぷよぷよのゼラチンのスイーツは、アメリカ人も大好き。しかし、材料のゼラチンのもととは牛の蹄なので、ガチガチの菜食主義者の方は召し上がらないんですよ。こういう完璧ベジタリアンを、「ベガン」って呼んでいます、ついであら。おやつにお誘いするときにもお気遣いが必要ですね。

小網代湾に現れる行灯クラゲ。刺されると痛いので要注意ですが、行灯の形がなかなか粋です。小さい人々には、行灯がわかるでしょうか。英語のボックス・ジェリーフィッシュ（箱くらげ）の名前の方がわかりやすいかもしれませんね。タコクラゲもいます。その名のおり、タコさんみたいですね。英語では、傘のボツボツから、スポッテド・ジェリーフィッシュ（水玉くらげ）です。アカクラゲは、ブラウン・ジェリーフィッシュ（茶色くらげ）。共生している藻類の多さによっては、このクラゲの色は茶色くなるそうです。名前のちがいもそのあたりからきているのかも。とても上品なミズクラゲは、英語でも、ウォーター・ジェリーフィッシュ。ムーン・ジェリーフィッシュ（月くらげ）と呼ばれることもあります。

フランス語では、「メドゥーサ」。ギリシャ神話、ゴルゴンの三姉妹のひとりで、髪の毛が毒蛇。そして、見たものを石に変えてしまうコワイ怪物ですね。フランスのクラゲは、ずいぶん勇ましい名前を頂戴しました。今年の夏発表された、カルフォルニア工科大とハーバード大学の共同研究は、名付けて「逆メドゥーサ工学」。どうやら、石のようにカチカチのロボットを、シリコンなどを使ってクラゲのように、ふにゆふにゆに、そして優雅に動かそうというものらしいです。ふにゆふにゆロボットの名前は「メドゥーソイド」。こちらは、やさしそうなロボットです。とても役だってくれるのでしょうか。

命のない秩序と、命ある無秩序、それぞれが上手にバランスをとっていけるとよいですね。

参考にした本：

『筑摩現代文学大系 33 巻 萩原朔太郎・三好達治・西脇順三郎集』（筑摩書房 1978）

『金子光晴詩集』（岩波書店 1991）

『禅林句集』（岩波文庫 2009）

西水庵無底居士『色道諸分難波鉦』（岩波文庫 1991）

三好達治『測量船』（講談社文芸文庫 1996）

『類説校注（上下）』（宋）曾造編（福建人民出版社 1996）

“Engineered ‘Jellyfish’ Mimic,” *Nature Biotechnology*, August 2012, vol. 30 No. 8, (Nature Publishing Group), pp. 792-797.

== 小倉さんのディープな世界コーナー ==

8月19日のカニパトでは小さなアンドンクラゲ1匹と、やはり可愛らしいタコクラゲ1匹の2匹が見られました。今年はアンドンクラゲよりタコクラゲの方が良く見られます。アンドンクラゲは刺されると大変ですが、タコクラゲには刺されませんし、綺麗で可愛いので人気があります。

小網代では他にミズクラゲ、アカクラゲを見ることがあります。これらのクラゲは刺胞動物の鉢虫綱と箱虫綱のクラゲに属しますが、ノーベル賞で有名になったオワンクラゲはヒドロ虫綱、軟（ヤワラ）クラゲ目です。このヒドロ虫綱に花クラゲ目があります。この仲間のベニクダウミヒドラはクラゲ型の生活ではなくポリプ型の生活をします。3センチくらいの柄に1センチくらいのピンク色のポリプを開きます。

小網代湾では早春の2、3月ころアマモの葉上でたくさん見られることがあります。このときにはアマモ場がピンクのお花畑のようになります。アマモ場の復活が待ち遠しいです。



小網代の森と干潟を守る会の活動

- 7/1 NPO 法人小網代野外活動調整会議 ココボラ支援
- 7/14 つうしん No.124 印刷・発送（横須賀市民活動サポートセンター）
- 7/14 スタッフ会議（横須賀市民活動サポートセンター）
- 8/4 第 110 回自然観察&クリーン「つながる生命 アカテガニの放仔」
- 8/11 総会議案書準備。富士ゼロックス夏祭り参加準備
- 8/17 富士ゼロックス夏祭り参加。（於：海老名）
- 8/26 スタッフ会議（三浦市南下浦市民センター）
- 8/26 第 23 回小網代の森と干潟を守る会総会
- 8/27 森の応援金 30 万円をかながわトラストみどり財団へ「小網代の森緑地保全のため」として寄付。

ご寄付ありがとうございます

土屋圭子様 鈴木慶子様 蓮尾もと子様 前田信二様 木内恭子様
森の応援金 ありがとうございます。

皆様からお預かりした森の応援金をスタッフ会議・総会の承認を得て、今一番有効な使い道として「小網代の森緑地保全のため」として 30 万円をかながわトラストみどり財団に 8 月 27 日寄付しました。財団からは「小網代の森保全支援会費と合わせて、小網代の森保全のための自然再生活動に充てさせていただきます。大きな力となります。」といただいております。引き続き皆様からの森の応援金を募らせていただきます。「小さな一歩も集まって、大きな足跡に。」

NPO 法人小網代野外活動調整会議からのお知らせとお願い

第 4 回こども小網代ボランティア・クリーンアップ ご参加のお誘い

小網代保全ならびに活用に、地元のこどもたち、各地の小網代ファンのこどもたちの参加を促すことを主旨として、2012 年初秋のこども小網代ボランティア(ココボラ)イベントを開催します。(参加無料)

2012 年 10 月 6 日(土)、9:45 白髭神社前集合、または 9:00 三崎口駅改札前集合、12:30 解散
お申込み方法、お問い合わせ先他詳細は同封のチラシをご覧ください。

※ 小網代の森と干潟を守る会は NPO 法人小網代野外活動調整会議の活動を支援しています。

トラスト緑地保全支援会員 & 小網代応援団募集

◆トラスト緑地保全支援会員になるには

トラスト財団のパンフレットにある申込書に記入して郵送します。またはトラスト財団のホームページ (<http://ktm.or.jp>) から、申し込むことができます。支援したい緑地にはぜひ「小網代の森」をお選びください。

通常トラスト会費(大人 2000 円、中高生 1000 円、小学生 500 円、家族会員 3000 円)の他に 3000 円の支援会員会費が必要です。 よろしくお願ひします。

◆小網代応援団に入るには

NPO 法人小網代野外活動調整会議（電話：045-540-8320 E-mail: koajiro@koajiro.org）までお問い合わせください。

「小網代応援団」に登録していただいた方には、年に数回の特別観察会をご案内いたします。森と干潟の様子をしっかりと見守り、楽しみながら、大好きな森を育てていきましょう。

第 111 回・112 回自然観察 & クリーンのお知らせ

主催：小網代の森と干潟を守る会 共催：NPO 法人小網代野外活動調整会議

◆ 第 111 回 ラムサール条約と干潟の鳥

秋になると小網代は鳥たちで賑やかになります。夏の間、北国や高原で子育てをしていた鳥たちが帰ってきます。

小網代湾にはマガモなどのカモ類が、周囲の木々にはアオサギ、ダイサギ、コサギ、そして毎年現れるミサゴやノスリ、オオタカなどのタカ類が、干潟や周囲の湿地にはシギやチドリが、河口にはカワセミも姿を現します。

日 時：9月29日（土）10時 三崎口駅前集合

講 師：須藤伸三氏 別府史朗氏

持ち物：長靴、お弁当、飲み物、雨具、

（あれば）双眼鏡、図鑑など

小さなお子さまは着替えもあると安心です



◆ 第 112 回 小網代の干潟周辺の植物観察

これまで、当守る会では春の4～5月に小網代の森の中央の浦の川に沿って花の観察をしてきましたが、今回は初めての試みとして、あえて小網代湾周辺の干潟の植物を中心にスポットを当ててみたいと思います。この区域は植物にとって塩風害、生理的乾燥状態など厳しい状況が待っています。果たして、この秋どんな植物に出会えるか、楽しみです。

日 時：11月17日（土）10時 三崎口駅前集合

講 師：鈴木清市氏

持ち物：長靴、お弁当、飲み物、雨具、

（あれば）図鑑など

小さなお子さまは着替えもあると安心です



小網代の森と干潟を守る会ホームページ (URL: <http://www.koajiro-higata.com>)

会員専用ページのご利用は、下記問い合わせ先へお名前とご住所を明記して、ユーザーID・パスワードをご請求ください。また紙版つうしん郵送の中止・復活はいつでも可能です。

お問い合わせ: kohou@koajiro-higata.com (小網代の森と干潟を守る会 広報担当・はし)

小網代 森と干潟つうしん NO.125 2012年9月8日発行

森も海も干潟も 奇跡の集水域生態系を未来の子どもたちへ

小網代の森と干潟を守る会

〒238-0111 神奈川県三浦市初声町下宮田 261-5

代表 高橋 伸和 E-mail: info@koajiro-higata.com

電話 046-889-0067(副代表 仲澤)

URL: <http://www.koajiro-higata.com>

年会費: 一般会員¥1000 賛助会員¥5000(7月～6月 入会金不要)

郵便振替 口座 00260-4-21569 加入者名 小網代の森と干潟を守る会